

東京都遺伝子組換え作物栽培に関する指導基準(案)

平成 18 年 月 日
18 産業農振第 号

第 1 総則

1 目的

「都内での遺伝子組換え作物の栽培に係る対応指針」(平成 18 年 5 月 18 日付 18 産労農振第 186 号、以下「対応指針」という。)の 5 (1) のアに基づき、遺伝子組換え作物の栽培しようとする者に対する指導を行うため、「指導基準」を設定する。

2 関係法令等

- (1) 「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」(平成 15 年法律第 97 号、以下「カルタヘナ法」という。)
- (2) 「都内での遺伝子組換え作物の栽培に係る対応指針」(平成 18 年 5 月 18 日付 18 産労農振第 186 号、以下「対応指針」という。)
- (3) 「都内での遺伝子組換え作物の栽培に係る対応指針の運用について」(平成 18 年 5 月 18 日付 18 産労農振第 238 号、以下「運用」という。)
- (4) 「第 1 種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」(平成 16 年 2 月 24 日付 15 農会第 1421 号農林水産技術会議事務局長通知、以下「実験指針」という。)
- (5) 「農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換え生物等に係る第一種使用規程の承認の申請について」(平成 16 年 2 月 9 日付 15 消安第 5839 号、環自野発第 040209002 号農林水産省消費・安全局長、農林水産省農林水産技術会議事務局長、環境省自然環境局長通知、以下「承認申請通知」という。)

第 2 一般ほ場における交雑混入防止措置

1 一般ほ場での栽培

一般ほ場での栽培とは、遺伝子組換え作物の開放系での栽培で、「隔離ほ場の試験研究栽培」以外のものを言う。(対応指針第 3 の (3))

「開放系」での栽培とは、一般的な屋外ほ場のほか、カルタヘナ法に基づく拡散防止措置が講じられていないビニールハウス、ガラス温室などでの栽培を含む。

2 ほ場の状況及び周辺状況

遺伝子組換え作物を栽培するほ場の状況とともに、周辺ほ場の位置及び農作物栽培状況、並びに周辺の同種雑草の植生状況も十分に把握した上で栽培を開始するよう指導する。

3 指導対象

カルタヘナ法に基づく第一種使用規程で承認及び経過措置で承認がなされているとみなされる農作物のうち、都内で食用に生産される可能性が見込まれる農作物を対象とする。

~~またなお~~、同種の雑草等を介して間接的に一般作物へ交雑する可能性があるため、交雑する可能性のある野生植物（人為的に管理されないものを含む）~~も対象とする~~との間に一定の交雑防止措置を講ずるものとする。（表1）

表1 交雑する可能性がある同種作物及び野生植物

栽培対象作物	同種栽培作物 (野生化したものを含む)	交雑する可能性がある 野生植物
イネ	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)	イネ (<i>Oryza</i>) 属植物
ダイズ	ダイズ (<i>Glycine max</i> L.)	ダイズ (<i>Glycine</i>) 属植物
トウモロコシ	トウモロコシ (<i>Zea mays</i> L.)、 テオシント (<i>Zea mays</i> subsp. <i>mexicana</i>)	トウモロコシ (<i>Zea</i>) 属植物
ナタネ	西洋ナタネ、ナバナ等 (<i>Brassica napus</i>)、 ハクサイ、カブ、コマツナ、チンゲンサイ、ツケナ類等 (<i>Brassica rapa</i>)、 カラシナ、タカナ等 (<i>Brassica juncea</i>) カイラン (<i>Brassica alboglabra</i>) ダイコン (<i>Raphanus</i>) 属植物	アブラナ (<i>Brassica</i>) 属植物 ダイコン (<i>Raphanus</i>) 属植物

パパイヤ	パパイヤ (<i>Carica papaya</i> L.)	—
------	---------------------------------	---

4 交雑防止措置

同種作物等との交雑防止措置として、次の（１）または（２）のいずれかの対策を行うよう指導する。なお、開花までに栽培が終了する場合も、同様の指導を行う。

（１）隔離距離による交雑防止措置

- ① 当該栽培対象作物ごとに、表１に定める同種栽培作物（野生化したものを含む）及び交雑する可能性がある野生植物との間に、表２に定める距離以上隔離するものとする。

表２ 隔離すべき距離

栽培対象作物	同種栽培作物等との隔離すべき距離
イネ	〇〇m
ダイズ	〇〇m
トウモロコシ	〇〇m
ナタネ	〇〇m
パパイヤ	〇〇m

- ② イネ及びダイズについて、食品安全性承認作物でない又は飼料安全性承認作物でない第１種使用規程承認作物が栽培実験対象作物である場合には、上記（１）に加え、「実験指針」第２の２（１）イのモニタリング措置を実施するものとする。

（２）隔離距離によらない交雑防止措置

隔離距離が定められている作物の栽培であって上記（１）の措置をとらない場合には、次のいずれかの交雑防止措置をとるものとする。

- ① 開花前の摘花、除雄又は袋かけ
- ② 開花中の風、訪花昆虫による花粉の移動を防止できるネットによる被覆又は温室内での栽培
- ③ その他、評価委員会の意見を聞いて定める措置

5 混入防止措置

収穫物や種子への遺伝子組換え作物混入防止措置として、次の（１）～（５）の対策を行うよう指導する。

（１）栽培の種子、種苗の分別管理等

- ① 栽培に用いる遺伝子組換え作物の種子・種苗は、その他の作物と区分して保管・管理すること。
- ② 育苗や播種、定植の準備を行う際に他の作物の種子・種苗に混入しないよう措置すること。
- ③ 種子・種苗の管理場所から栽培ほ場に運搬する際には、他のほ場への種子・種苗のこぼれ落ちを防止すること。
- ④ 遺伝子組換え作物の種子・種苗が、野鳥等の食害により拡散しないよう留意すること。

（２）栽培に用いた機械施設等の洗浄等

- ① 栽培に使用する機械施設等は専用のものを用いるか、栽培に係る各作業の終了後に洗浄・清掃を行うこと。
- ② 栽培ほ場から機械を搬出する際には、栽培ほ場内で機械に付着している土や種子・種苗を払い落とすこと。

（３）遺伝子組換え作物の収穫物の管理等

遺伝子組換え作物の収穫物については、その他の作物の収穫物と厳重に区分して保管・管理すること。

（４）栽培終了後の遺伝子組換え作物等の処理等

遺伝子組換え作物を栽培していたほ場で栽培終了後、遺伝子組換え作物及びそのほ場にある同種作物（以下、「遺伝子組換え作物等」という。）の処理等は次によること。

- ① 当該年度の栽培終了後、必要とするもの以外の遺伝子組換え作物等は全て焼却、その他植物体を再生しないような処理を行うこと。
- ② 遺伝子組換え作物の栽培を行っていたほ場外に搬出する必要がある場合には、運搬中に遺伝子組換え作物等がこぼれ落ちることを防止するよう措置すること。

（５）遺伝子組換え作物等を栽培したほ場での後作の収穫物の取り扱い

遺伝子組換え作物等を栽培したほ場に次期作あるいは次年度作として栽培した作物の収穫物は、前作の遺伝子組換え作物等を開花前に抜き取る場合その他当該ほ場の収穫物に遺伝子組換え作物等が混入しない明確な理由がある場合を除き、遺伝子組換え作物等の収穫物と同様に処理すること。

6 交雑の有無を確認するための方法

同種栽培作物等との交雑の有無を確認するため、必ずモニタリング調査を実施するよう指導する。モニタリング調査は、遺伝子組換え作物を栽培する毎に行う。

(1) モニタリングの方法

当該遺伝子組換え作物と交雑の有無を確認できる同種作物（以下、「指標作物」という。）を選択し、開花期を合わせるように栽培する。

- ① 交雑防止に必要な隔離距離を確保する場合、表2の隔離距離の境界に栽培して、その種子を採取し、交雑の有無を確認すること。
- ② 隔離距離以外の方法による交雑防止または隔離距離を確保できない場合、指標作物を同種作物等と隣接した境界に栽培して、その種子を採取し、交雑の有無を確認すること。
- ③ その他、評価委員会が定めるもの。

(2) 交雑確認の方法

- ① 指標作物の種子を、簡易調査キット等を用いてスクリーニング検査を行い、陽性反応が出た場合はPCR法等により確認すること。
- ② キセニア現象を生ずるものについては、キセニア現象が生じている種子を抽出して確認すること。
- ③ 遺伝子組換え作物の導入形質が薬剤耐性の場合、薬剤耐性の有無により確認すること。
- ④ その他、評価委員会が定めるもの。

第3 隔離ほ場での試験研究栽培における交雑混入防止措置

試験研究機関の隔離ほ場で遺伝子組換え作物を栽培する場合は、~~第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針~~「**実験指針**」に準じた措置を講ずるよう指導する。

第4 栽培に係る管理体制の整備

遺伝子組換え作物を栽培しようとする者に、次の(1)～(5)の対策を行うよう指導する。

(1) 管理責任者の設置

管理責任者は、当該遺伝子組換え作物の栽培を総括的に管理する能力を有する者で、ほ場の管理が可能な場所に居住し、緊急時の連絡先を明らかにする。申請者自らが管理責任者となってもよい。

(2) 相談問い合わせ窓口の設置

栽培するほ場がある区市町村、当該地域の農業委員会、農協・農業者、周辺住民等が、電話、FAX、メール等により相談問い合わせができる窓口を設置する。

(3) 管理記録簿の作成

栽培管理、交雑の有無の確認、遺伝子組換え作物の種子・種苗、収穫物の管理・廃棄等の記録簿を作成・保管する。

(4) 緊急時における対応方法

交雑混入が生じたり、生じるおそれがある事態が発生した場合に対する緊急体制などを明確にする。組織内及び都に対する具体的な連絡方法、交雑、混入の拡大を未然に防止する具体的な対応方法を定める。

(5) 侵入予防措置

部外者の立ち入り防止等を図るため、立入制限区域の明示、施錠、適切な侵入予防措置を講ずる。

第5 交雑混入による経済的被害が発生した場合の対応

1 経済的被害の範囲

経済的被害とは、対応指針に定義しているとおり、交雑・混入した一般作物の除去、回収処理、及びその栽培にかかった経費等直接的な経済的負担の範囲とする。

2 対応方法の策定

一般作物に交雑・混入した場合のことを想定し、経済的被害への対応方法を策定し、交雑・混入した農作物の除去や回収処理、栽培に要した経費の負担等に関する考え方を明記するよう指導する。

第6 栽培に係る情報提供

1 対応指針に基づいた対応

対応指針に基づき、(1) 及び (2) を実施するよう指導する。

(1) 説明会の開催

遺伝子組換え作物を栽培しようとする者は、栽培計画書の提出までに、栽培するほ場がある区市町村、当該地域の農業委員会、農協・農業者、周辺住民等に対する説明会を開催する。

(2) 栽培終了時の報告

栽培計画書に記載した栽培が終了後、交雑の有無の確認結果をすみやかに都

に報告する。

2 その他

対応指針及び運用の規定によらず、遺伝子組換え作物を栽培しようする者に下記の対応を要請する。

- ① 計画書の内容については、誰でも見ることができるよう、ホームページ等を通じて公表するよう努めること。
- ② 計画書について意見が寄せられた場合には、計画書に記載した内容について、科学的根拠や関連する情報をわかりやすく説明するなど、情報提供と意見交換に努めること。
- ③ 栽培の経過について適宜ホームページ等を通じて情報提供するとともに、見学会を開催するよう努めること。
- ④ 栽培が終了した時は、栽培が終了した旨及び交雑の有無の確認結果をホームページ等に掲載するよう努めること。

第7 その他

本基準は、今後の科学的知見の変化と社会情勢の変化に合わせ、随時見直しを図っていく。